

音 楽

【音楽的な見方・考え方】

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

音楽 小学校

1 「見方・考え方」を働かせた題材構成

- ・表現及び鑑賞の活動を通して、児童が音楽のよさなどを感じ取ることができるよう題材を構成します。
- ・取り扱う教材や内容との関連から必要な〔共通事項〕を繰り返し指導できるよう題材を構成します。

2 思いや意図をもたせる学習過程

- ・音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けます。
- ・実際に音を出しながら曲の特徴にふさわしい音楽表現を試し、音楽の全体のまとまりを考えるなど、どのように表現するか、思いや意図をもたせる学習過程を設定します。

3 他者と共有・共感し深める学習活動の位置付け

- ・音楽的な特徴や構造と曲想との関わりについて理解し、聴き取ったことや感じ取ったことを他者と共有・共感する学習活動を位置付けます。
- ・表現の活動では、自分の思いや意図を音楽で表現することができるよう、録音などを通して自分の思いが表現されているかを確認する場面を位置付けます。
- ・鑑賞の活動では、音楽を聴いて気付いたことや感じたことを共有し、視点をもって音楽を聴くことができるよう指導します。

音楽 中学校

1 「見方・考え方」を働かせた題材構成

- ・音楽活動を通して、それぞれの教材等に応じた音や音楽が生活に果たす役割を考えさせるなどして生徒が実感できる題材を構成します。
- ・〔共通事項〕に示す「音楽を形づくっている要素」については、指導のねらいに応じて適切に選択したり、関連付けたりして指導できるよう題材を構成します。

2 音楽に対する価値意識を構築する学習

- ・音楽によって喚起された自己のイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽に対する評価などを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けます。
- ・自らが表したい思いや意図を客観的な根拠を基に考えを伝え合ったり、実際に歌ったり演奏したりして学習を深め、音楽に対する価値意識を構築する学習を位置付けます。

3 他者と共有・共感し深める学習活動の位置付け

- ・曲想と音楽の構造や背景との関わりや、音楽の意味や価値を判断することについて思考・判断し、知覚・感受したことを他者と共有・共感し、深める学習活動を位置付けます。
- ・表現の活動では、思いや意図を技能と結び付け、技能を習得・活用できるよう、録音などを通して自分の思いが表現されているかを確認する場面を位置付けます。
- ・鑑賞の活動では、感じ取ったことを説明し合うことを通して、言葉で表したことで音や音楽との関わりを捉えられるよう指導します。

指導の一層の充実に向けて

- ・音楽科における知識の習得は、音楽を形づくっている要素や音符や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解できるよう指導を工夫しましょう。
- ・音楽科における技能の習得は、思いや意図に合った表現をすることと連動しており、児童が技能の必要感を実感できる学習を大切にしましょう。